

がく 学 而

摂南大学図書館報

No.92 2011.3



〈CONTENTS〉

歴史教育とジェンダー主流化		枚方分館ニュース	9
図書館長 三成美保	2	図書館利用統計	10
福澤諭吉を世に出した蔵書		図書館アンケート結果	11
経済学部長 教授 八木紀一郎	4	蔵書検索システム	12
家具デザインにおける100年前の東西交流		データベースの使い方	13
理工学部 教授 川上比奈子	6	ライブラリー・サポーターから	14
トピックス	8	摂大文化大賞・編集後記	16

巻 頭 言

歴史教育とジェンダー主流化

— 教職コーナーの世界史教科書から —

図書館長 法学部教授 三成 美保

◆教職コーナーと歴史教科書

図書館本館3階に、教職コーナーを新設した。そこに取りそろえている高校世界史教科書を一度ひもといてほしい。久しく教科書から離れている人は、その変貌ぶりに驚くはずだ。カラフルで、コラムや図版が満載。読みものとしても十分楽しめる。末尾近くには、クローン羊ドリーや同時多発テロの写真。学習指導要領に即して、人の交流・モノの流通に重きがおかれ、日本との関係、世界を全体として眺める視点、少数民族の苦難など、歴史の片隅においやらねがちな人々に関する記述も多い。

では、女性はどうか。ジェンダーへの配慮は十分か。答えはそう簡単ではない。第一に、教科書によってかなり異なる。第二に、分野による差が大きく、近代欧米に限定されている。第三に、固有名詞で登場する女性は相変わらず少ない。むしろ、変化の兆しは確実にある。「ジェンダー」や「フェミニズム」に言及する教科書もあらわれた。しかし、ジェンダー視点は貫徹していない。

【表1】

世界史教科書のなかのジェンダー・トピック
(世界史A [近現代史中心]教科書9点/世界史B教科書8点。数字は左記ジェンダー・トピックに言及がある教科書の点数。詳しくは、拙稿「高校世界史教科書とジェンダー」長野・姫岡編『歴史教育とジェンダー』青弓社、2011年を参照。)

ジェンダー・トピック	世界史A	世界史B
古代ポリス(アテネ)の女性差別	9	8
女性参政権の獲得(20世紀初頭)	9	8
ジェンダー	1	1
フェミニズム	0	2
ウーマン・リブ(1960年代末)	0	1
女性解放運動・女性解放	4	4
性別役割分担・性別分業・公私分離	4	4
男女の二重規範(性規範の男女差)	0	1
産児制限(20世紀初頭)	0	1
ナポレオン法典の家父長制	3	1
同性愛	0	2
マリア信仰・マリア崇拜(中世)	0	2
オランブ・ドゥ・グージュ(18世紀末)	4	3
メアリ・ウルストンクラフト(18世紀末)	2	1
ココ・シャネル(20世紀)	3	1
カルティニ(インドネシア民族主義の母)	2	1

◆ジェンダー平等とジェンダー主流化

高校現代社会教科書で必ずゴシック体で言及されるのが、女性差別撤廃条約(1979年)と男女共同参画社会基本法(1999年)。女性差別撤廃条約は、いまなお性差別に関するもっとも基本的な国際法である。その署名・調印式が行われたのは、国連が主催した第2回世界女性会議(1980年)。世界145カ国の代表が集まる席上、日本政府代表高橋展子もまた署名した。だが、条約の批准はなかった。それは、男女雇用機会均等法が成立した1985年のことである。

その10年後、第4回世界女性会議(1995年北京会議)は空前の熱気に包まれていた。政府関係者のみならず、各国の多数のNGO・NPOが集う会場で、「ジェンダー主流化(gender mainstream)」が提唱されたからである。

国連で用いられる定義によれば、「ジェンダー

主流化」は、「女性の関心と経験を、男性のそれと同じく、あらゆる政治、経済、社会の分野における政策とプログラムをデザインし、実施し、モニターし、評価するにあたっての不可欠な部分にするための戦略」であり、「主流化の最終の目標は、ジェンダー平等(gender equality)を達成すること」とされる(1997年国連経済社会理事会)。世界サミットの成果文書(2005年)もまた、「我々は、ジェンダー平等を実現するためのツールとしてジェンダー主流化の重要性を認識する」と約束した。

◆ジェンダー指数

外務省のホームページを開いてみよう。そこには、gender equalityが頻繁に登場する。対応する日本語は「男女共同参画」である。男女共同参画社会基本法は、対外的には、Gender Equal Law(ジェンダー平等法)なのである。

ジェンダー平等の達成度をはかる指標を「ジェンダー指数」という。1995年のジェンダー主流化提唱以後、国連開発計画は、毎年、ジェンダー統計を公表している。そのうち、女性の政治的・経済的決定権への参加度を示す指数が、「ジェンダー・エンパワーメント指数(GEM)」である。日本は、生活水準の程度を示す人間開発指数では世界10位前後を推移しながら、GEMでは、測定可能な70~90カ国中50~60位から浮上できないままではいる。2009年、従来のジェンダー統計に、世界経済フォーラムの指数が加わった。「ジェンダー・ギャップ指数(gender gap index=GGI)」という。GGIはGEM以上にジェンダー・ギャップを如実に反映すると言われるが、それによると、日本のGGIは世界101位。識字率、初・中等教育在学率や健康寿命では世界1位、高等教育在学率は順位がぐっと下がって98位。女子の大学進学率が50%を超えたとはいえ、国際社会のなかでは男女とも進学率はまだ低い。

GGI順位を低くしている元凶は、経済・政治分野にある。管理職や国会議員、専門職における女性比率の低さが足枷となっている。つまり、日本は、世界有数の暮らしやすい安全な国だが、同時に、先進諸国では他に例がないほどジェンダー・ギャップが大きい国なのである。

【表2】2009年GGIの日本順位(平成22年度男女共同参画白書)

内訳	順位	内訳	細目	順位
GGI(全体)	101	健康分野	健康寿命	1
政治分野	110	教育分野	識字率	1
経済分野	108		初等教育在学率	1
健康分野	41		中等教育在学率	1
教育分野	84		高等教育在学率	98

◆日本におけるジェンダー主流化の停滞

政府も手をこまねてはいられない。2010年



フランス革命期の女性結社。教会に集まり、革命情勢を伝える新聞を読んで議論した。しかし、女性結社禁止令(1793年)や家庭復帰令(1797年)により女性の政治参加は禁止される。

12月に閣議決定された第3次男女共同参画社会基本計画では、2015～20年をメドに数値目標が定められた。国家公務員I種や地方公務員上級の女性比率30%をめざすというタイム・ゴール方式のポジティブ・アクションである。大学や学術分野での女性活用はとくに重視され、かなり大きな成果が出されている。しかし、ジェンダー平等にもっとも効果的として各国で導入されている国会議員のクォーター制（30～50%の議員を女性とするなど）は検討すらされていない。

男女共同参画社会基本法にしたがい、政府は企業のポジティブ・アクションを支援できる。厚労省の「2010年度均等・両立推進企業表彰」で最優秀賞を受賞した日本IBMの実績は、16,000人の社員のうち、11名の男性が育児休業を1ヶ月とったというレベルである。イクメンはたしかに大事だが、部課長の女性比率10%前後で大臣賞とは情けない。

また、女性差別撤廃委員会（CEDAW）における最新の政府レポート審査（2009年）では民法改正が勧告されたが、実現にはほど遠い。欧米で1970～80年代に実現した婚外子差別撤廃や選択別姓導入は、1996年に民法改正要綱（法務省）で原案がまとめられたのち、国会審議は止まったままである。日本のジェンダー平等は、国際社会の水準に遠く及ばない。

◆フランス革命はどう書かれているか？

ジェンダー不在は教科書でも目立つ。ジェンダー視点を欠く教科書で歴史を学ぶと、知識はどのようにゆがむだろうか。受験でも必須の重要項目であるフランス革命を例に見ておこう。

高校世界史B教科書としてシエア50%近くを誇る『詳説世界史B』（山川出版社）には、こう記されている。「アメリカの独立革命は近代民主政治の基本原則を表明してイギリスからの独立を達成し、フランス革命は多様な社会層の複雑なからみあいのなかで、旧制度の廃棄と政治的発言力を有産市民層にもたらした。…これら両革命は、近代市民社会の原則を提起するものであった」（20頁）。



これに対して、『明解新世界史A』（帝国書院）では、「子どもと女性の地位」という本文見出しで次のように記す。「フランス革命では、『女性と女性市民の権利宣言』を発表したグージュのような女性革命家も現れた。しかし、ナポレオン法典で『夫は妻を保護し、妻は夫に服従する義務を負う』と定められたように、女性は男性と平等であるとは認められず、選挙権も与えられなかった」（95頁）。

◆「自由・平等」のジェンダー・バイアス

ほとんどの教科書は、『人権宣言』（1789年）をカラー図版で紹介する。しかし、この『人権宣言』が、フランス語のタイトル通り、「男性と男性市民の権利」しか保障していないことに言及する教科書はきわめて少ない。グージュは、『人権宣言』を批判して『女性と女性市民の権利宣言（女権宣言）』（1791年）を書き、女性の政治参加と財産権の自由を訴えた。政治的には穏健派に属した彼女は、ロベスピエール率いる国民公会によって処刑される。このロベスピエールは、『人権宣言』

が有産市民の政治参加しか保障していない点を厳しく批判し、成人男性すべての政治参加、すなわち「男性普通選挙」を訴えた。だが、急進派の彼とて、女性に選挙権を認める発想はもたなかった。アメリカでも事情は変わらない。市民革命が達成した「自由・平等」は、フランス人権宣言男性と男性市民の「自由・平等」にすぎなかった。近代市民社会は、本質的にジェンダー・バイアスをともなった社会として出発したのである。

◆女性の政治的発言権

では、女性は歴史を通じてずっと政治的決定権から疎外されてきたのか。決してそうではない。古代日本には、8代6人の女帝が存在する。最新のジェンダー史研究によると、古代日本では男女の首長がほぼ半数存在し、「性」ではなく「実力」が決め手となった。卑弥呼もまたそうした女性首長の一人である。しかし、戦後、象徴天皇制の成立とともに、教科書記述に変化が生じる。1960年代以降の日本史教科書では、「卑弥呼が祭礼／男弟が政治」という役割分担が定式化された。

ふたたび、世界史教科書に戻ろう。中国史で必ず取り上げられる二人の女性政治家がいる。則天武后と西太后だ。則天武后については、「ライバルをおとしめて皇后となり」「恐怖政治で独裁」とさんざんな評価を書く教科書もあれば、「比較的統治が安定し、政治改革が進んだ時期であった」という新しい解釈を取り入れたものもある。

断頭台に消えたフランス王妃マリー・アントワネットについてはどうだろうか。近年、ジェンダー史ではアントワネットの新しい評価が登場している。彼女は、「贅沢好きの無能な王妃」だったのではなく、弱気な国王に代わって政治を取り仕切り、かえって反発を買ったというものだ。「フランス政治に口出しするオーストリア女」に対するバッシングは苛烈だった。歴史上はじめてボルノグラフィーが大衆化し、国王夫妻を性的に中傷する道具として利用されたのである。しかし、こうした研究成果は、まだどの教科書にも反映されていない。

◆歴史教科書の書き換えに向けて

近代歴史学は、近代市民社会の学問であり、それ自体が「公（政治・経済）＝男性／私（家庭）＝女性」という近代的なジェンダー規範に縛られていた。政治に関わる女性を貶め、「自由・平等」があたかも「普遍的人権」であるかのような錯覚は、近代歴史学が生み出した「歴史的産物」なのである。

歴史学は高邁な学ではなく、すぐれて実践の学である。歴史教科書は、男女がともに歴史の主体であった過去を教え、現在を相対化し、差別のない未来を展望させねばならない。歴史のなかで活躍した女性は数知れず、名もなき民にはつねに男女が半数ずついたのだから。男女を対等に評価する視点で歴史教科書の書き換えが進むならば、GGI順位の低さに象徴される事態も克服されていくだろう。ジェンダー主流化は、まず教育からはじめねばならない。



マリー・アントワネット

福澤諭吉を世に出した蔵書

— 想像される思想形成への影響 —

経済学部長 教授 八木 紀一郎

蔵書は財産になるだろうか？ これは研究生活から退きかけている学者、あるいは読書家の誰しもが抱く疑問であろう。これまでは本を汚さずに読んで古書店が値踏みしやすいように収集した図書であれば売れることもできた。しかし、いまは、ただでもいいからひきとってくれといっても、古書店からも図書館からも、置く場所がないといって断られるのが普通である。

時代をさかのぼって幕末の時期は、そうではなかった。江戸でも上方でも出版文化が花開いていたが、刊行本はなお貴重であった。刊本が入手できないときには、読書家は本の持ち主を拝み倒して借り受け、昼夜兼行でそれを書き写したのである。この頃に、蔵書を売却して世に出ることができたのは福澤諭吉である。といっても、諭吉自身が収集した蔵書ではなく、向学心が強かった父百助らが収集した福澤家の蔵書であった。

百助は大阪の中津藩蔵屋敷で藩の物産取引の末端を担当する下級武士であったが、学問への志を持ち続け、大阪近辺の学者たちと親交をもっていた。中津藩屋敷で生まれた末子を諭吉と名づけたのも、長年さがしとめていた『上諭条例』を入手した喜びによるものであった。父百助が亡くなったあと、残された一家は中津に戻って貧窮生活を続けた。諭吉は数え21歳になってようやく中津を出ることができ、長崎をへて大阪に向かい、緒方洪庵の適塾に入門した。しかし、わずか1年半後の安政3年秋、兄三之助が病没したため、諭吉は家督を継ぐために中津に戻らなければならなくなった。3人の姉たちは嫁ぎ家には母だけが残っていたが、福澤家には当時では大金の40両の借金があった。もし、この借金の返済ができなければ、諭吉は父や兄と同様に、小藩の下

級武士としての人生に甘んじなければならなかったはずである。

福澤家の借金問題を解決し大阪で学問を続けることが可能になったのは、旧師白石常人（照山）の斡旋で家にあった和漢の書籍を、豊後臼杵藩に買い取らせることができたからである。『福翁自伝』では次のように回想されている。

「ところで私の先生、白石という漢学の先生が、藩で何か議論をして中津を追い出されて豊後の臼杵藩の儒者になっていたから、この先生に便って行けば売れるだろうと思って、臼杵までわざわざ出掛けて行って、先生に話をしたところが、先生の世話で残らずの蔵書を代金十五両で臼杵藩に買って貰い、まず一口に大金十五両が手に入り、その他有らん限り皿も茶碗も井も猪口も一切売って、ようやく四十両の金が揃い、その金で借金は綺麗に済んだ……」（福澤諭吉著、富田正文校訂『新訂福翁自伝』岩波文庫、50ページ）

福澤諭吉は明治維新前後の日本人に西洋文明の意義を教えた人物で、君臣身分関係を正当化する儒学を徹底して批判した人物である。しかし、福澤は西洋文明を受動的に受け入れるだけの直訳的な紹介者では無く、西洋の制度・文物を、それを日本に適用した場合の実際的な効果を評価し、順序を定めながら導入しようとする主体的な思想家であった。彼の西洋文明へのそのような戦略的対し方がどのようにして可能になったのかは、近代日本思想史研究の謎の一つである。有力な仮説は、蘭学・洋学に触れる以前の中津時代に諭吉がある程度の思想形成を果たしていたということであろう。研究者のなかには、そのように考え

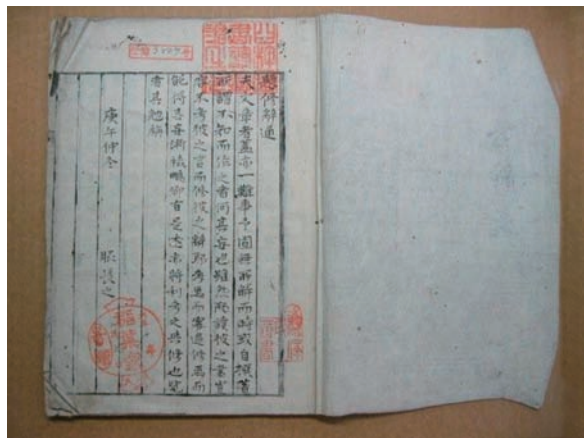
て、中津での漢学学修の影響を重視する人がいる。しかし、中津時代の論吉の思想形成を考えるならば、父の遺した蔵書も、中津の漢学教師たちと同程度の意義をもつだろう。

臼杵図書館で保存されている福澤家の蔵書は私の調査では表に示した22点である。それは、中国由来の経学・歴史・詩文の刊本（唐物）のほか、日本の学者の著作の刊本や写本も含まれている。論吉は自分でも、中津で「漢学者の前座ぐらい」になっていたというから、手もとにある漢籍古典やその注釈は繰り返し参照したことであろう。

この蔵書で重要と思われることは、唐物の整い具合よりも、三浦梅園、帆足万里、亀井昭陽（元鳳）などの北部九州地域の学者の著作が含まれていることであろう。なき父を敬仰して生きている一家のなかで、父がこの地域の学問的伝統のなかにいたことを示す蔵書が論吉に影響を与えなかったはずはない。それは論吉の後年の思想の展開にとっても、何らかの関連をもっていそうである。というのは、第一はこの先学たちが儒学の古典解釈において、形式的な「名分」ととらわれない現実主義をとっていたことである。たとえばこの蔵書に含まれる『敢語』で、三浦梅園は、儒学正統の「義」と「利」の峻別論を排して、関係者それぞれに利を得させることであるが「義」としてしている。これは、亀井学系統の左伝解釈における現実主義と並んで、論吉の思考に影響を与えていそうである。第二に、三浦梅園、帆足万里は自然学において実証を重視し、長崎を通じて得

られる西洋自然科学の知識を自ら確かめながら取り入れようとした。福澤家蔵書は彼らの自然科学関連の著作を含んではいないが、梅園、万里の系統をひく学派のなかでは、彼らの自然科学思想が伝承されていた。中津時代の論吉がそれに影響されていたことは間違いないだろう。中津を出た論吉が、まず自然科学として蘭学を学んだことは、それを考えるとごく自然なことであったと思われる。

帆足万里『修辞通』（筆者撮影：写本 福澤氏蔵書印が消されている）



三浦梅園『敢語』（筆者撮影：福澤氏蔵書の印が押されている）



表 臼杵市立臼杵図書館蔵旧福澤氏蔵書

萬充宗、經學五書	陳明卿、四書備考	資治通鑑綱目三編	易經遵註行文便蒙
篆體異同歌	硃批文選	徐健菴、讀禮通考	沈起鳳、諧鐸
倉山居士、隋園詩話	蕭山陳、人生必讀書	三浦梅園、敢語	高士奇、江邨銷夏錄
伊藤長胤、刊謬正俗	建部清庵著、民間備荒録	洪自誠、菜根譚	脇長之編、帆足万里著、修辞通（写本）
帆足万里、肆業餘稿（写本）	亀井元鳳、讀辨道（写本）	亀井元鳳、烽山日記（写本）	佩文齋、廣群芳譜（写本）
博古堂、古文觀止	筠廊偶筆		

家具デザインにおける 100 年前の東西交流

— 謎の漆芸家、菅原精造を通して —

理工学部住環境デザイン学科 教授 川上 比奈子

■漆塗りの家具・インテリアデザイン

日本の英和辞典で小文字の japan をひくと、漆と訳されている。実際には海外で通用しないが、16世紀、日本の漆芸品がヨーロッパへ紹介されて以来、1900年代までに高く評価されたのは事実である。1925年のパリで産業装飾芸術国際博覧会が開催された頃には、日本国とは関係なく漆塗りの家具やインテリアが熱狂的な支持を集めた。例えばこの博覧会に、壁も椅子も漆塗りのインテリア(図1)が展示され、絶賛された。スイス出身の漆芸家、ジャン・デュナン(1877-1942)の作品である。



図1 総漆塗りの喫煙室 1925年

フランスへ送られた日本の視察団が帰国して、この部屋について報告した時、本家本元の漆芸家たちは度肝を抜かれ愕然とした。自国のデザイン感覚が、あまりに遅れている事実を付けつけられたからである。デュナンの部屋が、赤と黒の漆を基調に、シンプルに仕上げられていたのに対し、当時の国内の漆芸は、金銀をふんだんに使い花鳥風月をちりばめた装飾が未だ主流で、つまり旧態依然の意匠であった。逆に、輸出する日用漆器は利潤を求めすぎて、丁寧な工程を省き濫造したので、メイドインジャパンのブランドを失墜させていた。だからこそ漆芸界の重鎮たちは「このままでは、我が国が誇る漆芸は異国に追いぬかれてしまう」と危機感をあらわにし、漆に携わる人々を強く叱咤した。彼らは、デュナンに漆芸を教えたのが、菅原精造(1884-1937)という日本人だと知らなかったのである。

■グローバル人のさきがけ、菅原精造



図2 1911年の菅原精造

博覧会から遡ること20年、1905年の秋、菅原青年(図2)は、師匠の辻村松華とともにフランスへ旅立った。当時、彼は21歳、明るくて人助けを厭わない漆工科の学生であった。今ならば、美術・デザイン系の学科で学ぶ大学3年生だが、海外に行ける日本人が極めて少ない中、国を代表して漆技術を披瀝していくのだから、いわゆる留学とは異なる。喩えれば、コンピュータやスポーツなど自身の能力によって、グローバルに活躍する国際人のさきがけであった。辻

村は、渡航中に東京美術学校(現東京芸術大学)の学報へ紀行文を送り、冒頭を次のように始める。

「時は是、明治三十八年十一月十八日、横浜埠頭を解纜する仏国郵便船ツアーンに、便乗して、さして、行方は巴里の都・・・快活無邪気の菅原氏と、兄たり弟たる海上生活、ああ面白いことであろう」

これから約一ヶ月、勇壮なフランス船に乗って世界中の港に寄りながらパリに向かう。兄弟のように慕い合う師弟の気持ちは、トクトクと心音が感じられるくらい躍っていたはずである。

今でこそ、漆は保護されるべき伝統工芸の座に甘んじているが、100年前までは、国の主要産業であった。日露戦争の勝利に弾みをつけ、諸外国に肩を並べるため、漆芸品の製造が国策として後押しされ、対外政策としても重視された。こうした背景から東京美術学校の漆工科は、単に美しい工芸品を制作するための教育機関ではなく、漆産業界を牽引するリーダー養成所の役割をはたすことになる。菅原を抜擢した辻村教授は、新リーダーの代表格であった。辻村と菅原は、フランス工芸界から請われて日仏両国に貢献するために渡仏したと考えられる。

菅原は、山形にいる彫刻家志望の弟に宛て、パリの美術界を知らせる絵葉書を何枚も送っているのだが、その一枚に次のように書いている。

「軍人は軍刀を持って誇るも宜しあるべし、我は漆はけ持つて満足」

漆芸によって国を支えようとする覚悟と意気込みが感じられよう。その後、何らかの事情で二人の国への想いは分かれ、辻村は1907年に日本に戻ったが、菅原はパリに残り、生涯を漆芸の伝達と制作に捧げることになる。

■海を渡った日本の漆

ヨーロッパへ日本の漆が海を渡ったのは、早くは桃山時代に遡る。徳川初期、諸外国との通商が始まると、多くの漆芸品が輸出された。長い鎖国の間も、マリー・アントワネットなど王族が好んだ質の高い蒔絵が送り出され、出島のオランダ商館長が土産物として漆器を大量に持ち帰ったので、日本の漆芸品は各国で珍重された。

欧州人を惹きつけた漆塗り最大の魅力は、その光沢にある。例えば、丁寧に塗られ磨き上げられた単色の黒漆。表面は水を湛えたように潤い、光っている。その光のなかに、周りのものが奥へ吸い込まれ、消えゆくように映る。鏡のようにはっきり映るのではなく、ぼんやり映るので、夢のような世界が漆の表面に浮かび上がる。ダイヤモンドや金の輝きと全く異なるこの美しさは、ヨーロッパにはなかった。あ

らゆる贅沢品に飽きつつあった人々が珍重したとしても不思議はない。この「黒い宝石」と呼ばれた日本の漆に憧れた人たちは、模造漆を開発したほどであった。明治後期まで、菅原のように異国の芸術家に対し、技法を教える日本人はいなかったのである。

■菅原が協力した家具デザイン

『ジャポニズム 1854年から1910年にかけてのフランス美術に対する日本の影響』においてアイデルバークとジョンストンは「アイリーン・グレイが菅原という人物について東洋の技法を学び始めたことと、その5年後にジャン・デュナンがやはり同じ師について、勉強したことを忘れてはならない」という¹⁾。

1906年頃、アイルランドからパリに渡っていたアイリーン・グレイ(1878-1976)は菅原に漆芸を習い、家具やインテリアを漆塗りで制作した。それらはフランスはもとよりデザイン最先端の国、オランダから称賛を浴びた。後に建築設計へ活動をかえても漆塗り家具に通ずる理念と手法を住宅E.1027の設計に活かし、巨匠建築家、ル・コルビュジエを唸らせた。

菅原がパリに留まった理由は定かではないが、グレイから制作協力の依頼を受けて残留を決意した可能性が高い。実際、菅原はグレイの工房に住み込み、数多くの傑作を生み出している。例えば、1924年頃、



図3 トランザットチェア 1924年頃

グレイのデザインを菅原が漆で仕上げた椅子「トランザットチェア」(図3)がある。現代の家具デザインにつながる革新性から、近代家具の昇華とされる。通常、背もたれ・座面・4本脚で構成される椅子だが、「トランザットチェア」は二つの漆塗

りフレームの間に、水色のレザーがハンモックのように吊り下げられ、背もたれの部分はヒンジで回転する。座る人の身体や動きに合わせて形を変える斬新なデザインで、1930年に特許が認定された。漆の色や座面の素材を変えて6種類が知られており、ヴィトラ美術館にも保存されている。この他にグレイは漆を使いながら卓越したアイデアによって屏風やソファ、机、インテリア(図4)をデザインし、菅原は当時パリにいた職人たちに協力を求め、次々に実現させていった。



図4 集合住宅のインテリア 1924年頃
膨大な漆パネルを漆職人イナガキ、オオスタが手伝ったとされる

前述のデュナンも、グレイを介して菅原からの教えを受け、多くの職人を雇って、壺や屏風をはじめ豪華客船アトランティック号やノルマンディー号の内装まで漆塗りで仕上げた。グレイとデュナンの作品は、現在、パリ装飾芸術美術館やロンドンのヴィクトリア&アルバート美術館などで大切に扱われており、ヨーロッパの美術・デザイン関係者で知らない人はいな

い。ところが、菅原については、ほとんど明らかにされず、日本でさえ情報が錯綜していた。欧州の漆芸史をまとめたゲルボーは「フランスの漆芸術は菅原に多くを負っているのに・・・今では、彼について誰も何も知らない。・・・菅原以前に漆芸術はフランスに存在しなかった」とまで述べた²⁾。

■日本漆芸家たちの志

菅原について調べ始めたのは、グレイの建築を研究するうち、菅原の謎があまりに多く、日本人として情けないと思ったからである。岩手、山形、東京、フランス、アイルランドの25年にわたる調査を通して、少しずつ菅原周辺の情報が集まり、改めて驚くことは、現代家具デザインの礎のひとつが100年前の東西交流によって、それも無名の人たちの熱望によって支えられていた事実である。歴史に残る家具は、単なる生活優良品ではなく時代の象徴なので、思想・センス・素材・機能・構造・技術が揃っているのは当然だが、漆の近代家具の場合、伝統と新たなデザイン思想を融合したいと念じた人たちがいてはじめて実現された。菅原とその協力者たちは、自身を誇示するのではなく、東西の国籍を超え通ずる理想に漆芸の力を投じた。最近、海外から菅原についての質問が徐々に増えているのは、結果的に国益に還元されつつある証左に感じられる。菅原たちの志は、現代のグローバリズムがどうあるべきかを考える上で、参考になりはしないだろうか。

■他国の家具デザインにおける交流

摂南大学図書館本館2階に色とりどりの椅子が並んでいる。世界的に有名な建築家たちがデザインしたので「デザイナーズチェア」と称される。デンマークから北欧プライドの高い建築家：アルネ・ヤコブセンの「スワンチェア」と「エッグチェア」、曲げ木の神様：ハンス・J・ヴェグナーの「Yチェア」。アメリカからミッドセンチュリーのおしどり夫婦：チャールズ&レイ・イームズの「シェルサイドチェア」。イタリアから魔術師的近未来デザイナー：ヴェルナー・パントンの「パントンチェア」。フランスからダンディ建築家：フィリップ・スタルクの「ルイ・ゴーストチェア」である。後援会の方が寄贈してくださったこれらの椅子、単なるおしゃれ感を狙ったものではないので、一度、ゆっくり座ってみることをおすすめする。これらの椅子にも、デザイナーのセンスだけでなく努力を惜しまない職人たちの技術・熱情が詰まった歴史がある。図書館の丁寧なサービスで、関連書籍も横に置かれている。身を包んでもらいつつ、その椅子が生み出された背景を読み、次なる交流について想いを馳せるのもいいかもしれない。

注1) M. アイデルバーク、W.R. ジョンストン、『ジャポニズム 1854年から1910年にかけてのフランス美術に対する日本の影響』、国際墨技専門学校出版部、1982年、116頁

注2) A. L.-Gerbaud: *l'art du laque*, Dessain et Tolra, Paris, 1973, p.110.

図1) 日本産業協会編纂 『巴里万国装飾美術工芸博覧会日本産業協会事務報告書』1926年

図2) 遺族(菅原の甥) から譲り受けて筆者蔵

図3) P. アダム、小池一子訳『アイリーン・グレイ』リブリポート、1991年

図4) Wendingen, serie 6, no. 6, 1924

topics トピックス

■後援会からの寄贈により館内環境が向上

＜デザイナーズチェアを展示＞

前ページでも紹介されているとおり、本館2階に展示しているデザイナーズチェアは、摂南大学後援会から図書館に対して寄贈されたもので、エッグチェア、スワンチェア、パントンチェアなど有名デザイナーの代表的作品です。理工学部住環境デザイン学科のゼミで利用されるなど、デザインの感性を養うことが期待されます。なお、このプランニングにはオフィス家具メーカーに勤務の工学部建築学科卒業生が携わりました。デザイナーズチェア関連図書も揃えていますので、展示とあわせてご利用ください。



＜検索用パソコンを更新＞

情報検索のためのデスクトップパソコンが、本館21台、枚方分館4台の計25台分 Windows7 搭載機に更新されました。これも後援会からの寄贈品で、従来に比べて性能が向上して使いやすくなったため、連日多くの学生が利用しています。

■中学生が職業体験

寝屋川市立友呂岐中学校の2年生1人が、図書館本館で1月26日、27日の2日間、職業体験をしました。1日目は主にカウンター業務を、2日目は図書の装備、図書紹介のポップ作り、雑誌の配架などを体験。利用者からは見えないところでの仕事もたくさんあることを学んでもらえました。



▲カウンター業務



▲学術雑誌の配架

NEWS 枚方分館ニュース NEWS

図書館枚方分館は、大阪府と京都府の境、枚方市長尾峠町にあります。利用対象は、薬学部の学生や教職員で、近隣住民の方たちにも開放している小さなアットホームな雰囲気の図書館です。その枚方分館の活動の一端をご紹介します。

仮想本棚サービス（ブックログ）

昨年の6月からWeb上の仮想本棚サービスBooklog（ブックログ）を利用して、推薦図書、新刊書などの図書紹介サービスを開始しました。表紙の画像や推薦文、読者の声などが参照でき、内容をイメージできるようになっています。是非、一度クリックしてください。

携帯電話からも利用できます。

<http://booklog.jp/users/setsunanhira>



摂薬祭で本のリサイクルや映画の上映会を開催

10月10日（日）に行われた摂薬祭に参加し、映画の上映会と本のリサイクルを行いました。

当日は、前日までの雨空とは一変、秋空の下たくさんの来場者がありました。

映画は、午前中に『新野鳥図鑑2』を、午後には劇団四季のミュージカル『ドリーミング』をメディックスホールにて上映。

一方、メディックスホール前では、本のリサイクル市を開きました。二度、三度と訪れる方もおられるなど、なかなかの盛況でした。

軽雑誌の譲り渡し

枚方分館では、毎年春と秋に古くなったダ・ヴィンチやScreenなどの軽雑誌の譲り渡しを学生たちに行っています。「いつから始まるのか」との問合せが多数寄せられ好評で、恒例の催しとして、すっかり定着してきていることを実感しています。



▲恒例の軽雑誌の譲り渡し風景

図書館利用統計

図書館ではより良い図書館運営のために利用状況の調査、アンケートの実施などを行っています。ここでは2008年度、2009年度利用統計と、2010年度上半期に本館で貸出の多かった図書について報告します。

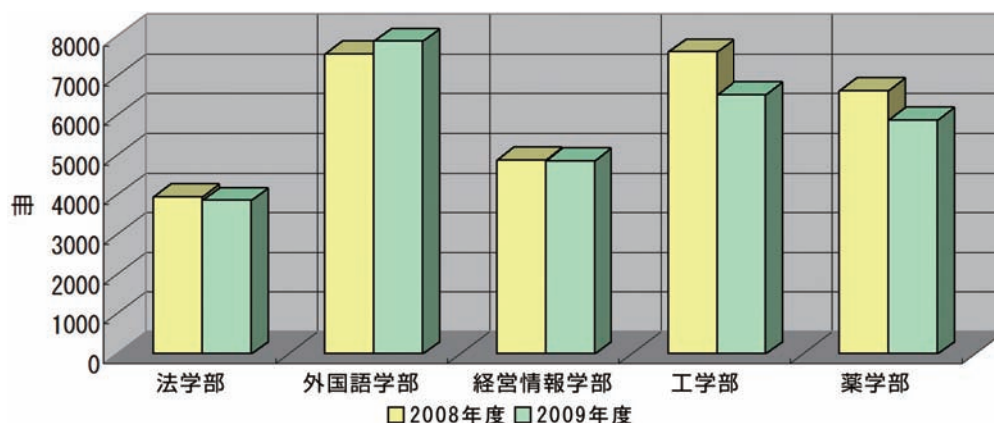
入館者数 貸出冊数

2009年度は開館日・入館者とも減少しましたが、貸出者数・貸出冊数については前年度を上回りました。

区分		本館	分館	計
開館日数	2009年度	268日	275日	—
	2008年度	274日	280日	—
入館者数	2009年度	210,000人	128,192人	338,192人
	2008年度	214,496人	147,696人	362,192人
貸出者数	2009年度	15,923人	4,703人	20,626人
	2008年度	15,735人	4,822人	20,557人
貸出冊数	2009年度	29,571冊	8,062冊	37,633冊
	2008年度	29,384冊	8,086冊	37,470冊

学部別 貸出冊数

貸出冊数を学部別にみると、外国語学部では2009年度増えましたが、他学部では減少しました。



2010年度 上半期貸出 ランキング

昨年度は小説が上位を占めましたが、今年度は一転して資格・就職に関する本がよく借りられました。昨今の就職難を反映し、今年度版のものだけでなく前年度版のものも人気があったようです。

順位	タイトル	貸出回数
1位	これが本当のSPI2だ！：問題の再現度・情報の精度・説明の分かりやすさ-No.1(2011年度)	62
2位	最新最強のSPIクリア問題集：これ一冊でSPI完全突破！（11年度版）	35
3位	TOEICテスト新公式問題集 (vol.3)	24
4位	これが本当のテストセンターだ（2011年度）	22
5位	TOEICテスト新公式問題集 (vol.2)	19
5位	新TOEICテストスーパー模試600問：模試3回分の予想スコアがだせる！	19
7位	新TOEICテストまるごと模試600問：聞いて覚える学習用例文もCD集収録	16
8位	告白	14
8位	新TOEICテスト「直前」模試3回分：ヒルキ流「直前の技術」で解く600問	14
10位	TOEICテスト新公式問題集 (vol.4)	13
10位	就職の赤本：準備・受験方法・筆記・面接・内定法則	13
12位	2011年度対応！！面接トレーニング	12

図書館アンケート結果

昨年の10月から12月まで図書館アンケートを実施しました。このアンケートは入館者や図書館利用指導で来館した1年生に回答していただきました。ご協力ありがとうございました。前年度との比較もしながら、主な項目の集計結果をお知らせします。

1. 回答者数

本館：222人（前年度：81人）

分館：35人（前年度：131人）

前年度と配布方法を変更したことにより、回答者数は、本館で増加、分館で減少しました。

2. アンケート集計

(1) 図書館の環境についてどう思われますか。

良い3点、普通2点、悪い1点として平均点を算出しました。

項目	本館	前年度	分館	前年度
資料の配置	2.5	2.6	2.4	2.2
閲覧席	2.5	2.6	2.4	2.2
案内表示	2.5	2.5	2.4	2.1
静寂性	2.3	2.2	2.0	1.6
視聴覚設備	2.6	2.6	2.3	1.9
パソコン設備	2.5	2.3	2.4	1.7
環境全般	2.6	2.6	2.5	2.0

本館、分館ともすべての項目で2点以上となりましたが、「静寂性」の評価がこれらの項目の中では一番低い結果となりました。「パソコン設備」は、昨年、最新の機種に更新されたこともあり、評価点が上昇しています。

(2) 図書館資料のうち、どれを充実すべきだと思われますか。

本館は、参考図書、専門図書、文庫本・新書本、一般雑誌、資格取得関連図書の順で、

分館は、専門図書、文庫本・新書本、参考図書、一般雑誌の順となりました。

(3) 図書館に必要な資料がなかった場合どうしますか。

項目	本館回答数	分館回答数
図書館スタッフに相談	64	9
公共図書館を利用	46	3
自分で購入	70	2
希望図書購入制度を利用	10	2
あきらめる	27	17

本館は「自分で購入」が最も多く、分館は「あきらめる」が最も多いという結果になりました。希望図書購入制度をもっと活用してほしいところです。

(4) 次の目的で図書館を利用する場合、利用環境はどうですか。

良い3点、普通2点、悪い1点として平均点を算出しました。

項目	本館	前年度	分館	前年度
レポート作成	2.5	2.4	2.6	2.3
自学、自習	2.6	2.7	2.6	2.0
グループ学習	2.4	2.3	2.5	2.2
情報検索	2.6	2.3	2.4	2.1
図書阅读	2.6	2.5	2.3	2.2
視聴覚資料鑑賞	2.5	2.6	2.1	1.8
雑誌閲覧	2.5	2.5	2.5	2.2
新聞閲覧	2.5	2.5	2.3	2.1

どの利用目的でも2点以上の評価でしたが、本館では「グループ学習」が、分館では「視聴覚資料鑑賞」の評価が低くなっています。館内環境整備の課題として、今後対応していきたいと思います。

(5) 図書館スタッフの対応についてどう思われますか。

	良い	比率 (%)	普通	比率 (%)	悪い	比率 (%)
本館	154	71.3	60	27.8	2	0.9
分館	25	73.5	8	23.5	1	2.9

概ね「良い」との評価でしたが、これに慢心せず、サービス向上に努めたいと思います。

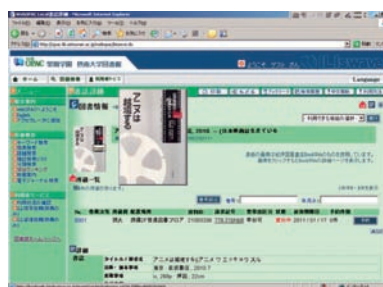
蔵書検索システムが パワーアップ！

2010年9月より蔵書検索システムがパワーアップされ、新サービスが開始されました！
従来からの便利なサービスとあわせてご紹介しますので大いにご利用ください！

Point

書影が見られる！

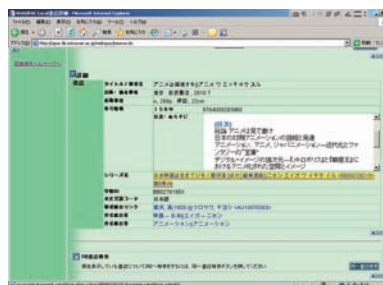
書誌詳細画面にて表紙画像が表示されるようになりました。表紙が見られると探やすく、より本のイメージがしやすいですね！



Point

目次やあらすじも見られる！

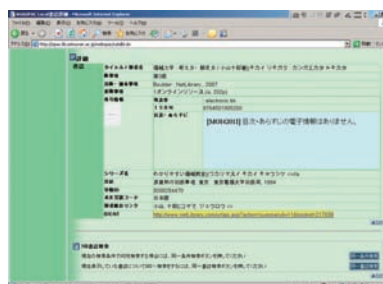
同じく書誌詳細画面で目次やあらすじが見られます！実際に本を手にとって見なくても探している本かどうか分かるかも！？



Point

電子ブックが見られる！

またまた書誌詳細画面にあるIDENTという欄にリンクがあれば直接電子ブックのページにジャンプして閲覧できます！



データベースの使い方

摂南大学図書館では様々なオンラインサービスを提供しています。その一つがデータベースです。データベースとはある特定のデータを集めて管理されているもので、そのデータを簡単に検索し抽出できるものです。現在図書館が契約しているデータベースのひとつをご紹介します。

ジャパンナレッジ プラスN

ジャパンナレッジは調べものに使う資料として最も役立つと言われている日本大百科全書（ニッポニカ）、次に国史大辞典、日本国語大辞典を搭載し、その他辞書・ニュース・学術サイト URL 集などを一括検索できる日本最大の知識データベースです。時事用語や経済情報などの日変わり・週変わりのコンテンツや、目で見えて理解し楽しめる多彩なマルチメディアコンテンツなど、知りたい情報に素早くたどり着くことができます。

1 ジャパンナレッジの利用は、図書館HPの「オンライン情報源」からアクセスしてください。画面右上にログインボタンがありますのでこちらをクリックすれば自動的にジャパンナレッジにログインすることができます。



2 ジャパンナレッジには基本検索、詳細検索、外部サイト検索がありますが、ここでは基本検索をご紹介します。基本検索の方法はいたって簡単。検索窓に検索したい語を入力して検索ボタンを押すだけ。これでニッポニカをはじめとする事典・辞書を検索してくれます。



3 検索結果が表示され、見出しをクリックすると本文が表示されます。本文画面ではカーソルで調べたい言葉をドラッグすると選択した言葉をその場で基本検索するという、調べものにはとても強い味方の便利な機能もあります。



あなたも 「ライブラリー・ サポーター」 になりませんか？

「学生目線からより図書館を利用しやすくしよう！」という目的で、2010年10月にライブラリー・サポーターが誕生しました。

主な活動は、図書館に配架する図書の選書、本の紹介のポップ作り、ライブラリーニュースレターの作成など様々です。



図書館にはサポーターが選んだ本が配架される「サポーター選書」のコーナーが、本館1階の就職・資格関連図書などが並ぶ本棚の奥に設置されました。そこには、私たちライブラリー・サポーターが行った第1回目の選書本が並んでいます。

今回の選書では、『キノの旅～The Beautiful world～』『涼宮ハルヒ』『文学少女』『嘘つきみーくんと壊れたまーちゃん』など、ライトノベルのシリーズものが配架されました。一般的に言われる小説とは違い、漫画のようなイラストの挿絵に、会話が多く文章が短いため、読書が苦手な人でも軽く読めるの

がこのライトノベルシリーズ。ファンタジーやSFものも多いので、ちょっとワクワクしてみたい時、違う世界を覗いてみたくなった時、気分転換に手に取って見ては？

「どうしても、本が苦手…」という学生さん。図書館では書籍や雑誌に限らず、2階には手芸や料理のハウツー本、サポーター選書の本棚の近くには、手塚治虫の『BLACK JACK』をはじめ、『鉄腕アトム』や手塚治虫短編漫画集、『ベルサイユのばら』に『こちら葛飾区亀有公園前派出所』などの、マンガ作品が配架されたコーナーもできました。どれも有名で名作といわれる漫画ばかりですので、長期休暇や空き時間などに読んでみてはいかがでしょうか？

また、「こんな本が読みたい」「このシリーズの続きが気になるのに図書館に入っていない！」などなど、図書館に入れてほしい本の要望があれば、図書館1階に用紙があるのでどんどん書いて提出してください。他にも、図書館では定期的に「学生選書ツアー」を行っています。あなたの手で選んだ本が図書館に並ぶかもしれませんよ！



ライブラリー・サポーターは、さきにあげた図書館に配架する本の選書の他にも

- ◆ 図書館内の本のPOP（ポップ）作成
- ◆ ライブラリーニュースレターの作成

といった活動を予定しています。

ポップとは、お薦めの本のキャッチコピーや、簡単なあらすじなどを紹介する小さなカードのことです。書店の店頭などでよく目にし



今回私たちが作成した、ライブラリーニュースレターの記事です。
選書本の紹介になっています。

たことがあると思います。

ライブラリーニュースレターは、不定期的に発行される記事のことで、上にあるようなものを作成して配布しています。新しく配架した本の紹介や、お薦めの映画の紹介、図書館の新しい取り組みの紹介などを記事にして配布しています。図書館に置いてあるので、自由に手にとってお持ちください。



インターネットや iPad といった電子書籍が普及し、若者の活字離れが進んでいると言われている昨今。文字を追い、活字が奏でる物語に引き込まれながら、紙をめくる音に耳を

澄ます…、そんな読書の楽しみを少しでも多くの学生に知ってもらいたい。そして、「本」に苦手意識を持たないで、図書館という場所を最大限、有効に活用してもらえるように、皆さんの意見も多く取り入れ、大学生活をより有意義に過ごせるようにお手伝いしていけたらと思っています。まだまだライブラリー・サポーターは誕生して日が浅いので、これから活動内容は充実していく予定です。

ちよっとでも興味のある学生さん！一緒に
 活動してくれるメンバーも募集しています！
 私達と一緒にライブラリー・サポーターをやっ
 てみませんか？

記事作成：ライブラリー・サポーター
藤野 瞳（法 学 部 4 年）
森山 湖（外国語学部 4 年）

《 摂大文化大賞入選作品決定 》

2010年度摂大文化大賞の作品募集の結果、リテラル部門（評論、小説など）に2点、ビジュアル部門（写真、絵画等）に17点の計19点の応募がありました。公開投票および図書館運営委員による審査の結果、つぎのとおり入選作品が決定し、1月28日に表彰式を行いました。



賞	作品名	部門	学部	年次	氏名
大賞	戦艦“カリントウ”	ビジュアル(絵画)	工学部	3	田 邊 裕 太
リテラル部門優秀賞	村上春樹と森ガール	リテラル(論説)	外国語学部	3	(匿名希望)
ビジュアル部門優秀賞	360°	ビジュアル(写真)	工学部	4	三 好 利 洋
人気賞	チョコレートケーキ	ビジュアル(模型)	経営学部	1	澁 谷 幸 隆
入賞	① てるてる坊主inフィリピン	ビジュアル(写真)	外国語学部	3	諏 訪 晴 美
	② 自分次第	ビジュアル(書道)	外国語学部	3	武田 由紀子
	③ 漆黒の薔薇	ビジュアル(陶芸)	外国語学部	3	伊 堂 寺 美 緒



大 賞



ビジュアル部門 優秀賞



入賞①



入賞②



入賞③



人気賞



リテラル部門
優秀賞

《 編集後記 》

▶学部・学科の新設等により、本館では利用者数が増加傾向です。枚方分館は、2012年度に看護学部の設置が構想されていることもあり、2011年度に改装予定です。今後とも資料内容や利用環境に関して多様なニーズに応えられる図書館作りをしていきたいと思っておりますので、ご意見、ご要望をお待ちしています。



SETSUDAI

「学 而」摂南大学図書館報 NO.92 2011.3 編集・発行 常翔学園 摂南大学 図書館

本 館 〒572-8508 大阪府寝屋川市池田中町17-8 TEL:(072)839-9111

枚 方 分 館 〒573-0101 大阪府枚方市長尾峠町45-1 TEL:(072)866-3102

URL : <http://www.setsunan.ac.jp>

常に成長！前進！広がる常翔教育！

常翔学園グループ 摂南大学、大阪工業大学、広島国際大学、常翔学園高等学校／
常翔啓光学園中学校、常翔啓光学園高等学校